

京丹後市地域づくり計画策定事業

金谷地区村づくり 計画書

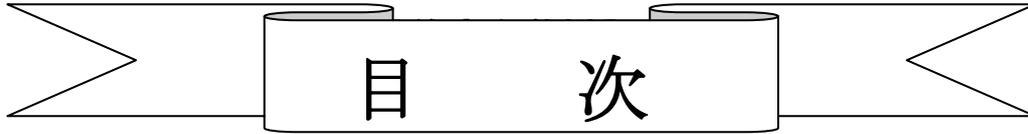


金谷区と青地ヶ嶽を望む
(2011年1月)



朝市イベントで、フラダンスを見せ
ていただく(2010/7/18)

平成23年3月策定 金谷区



目次

第1章 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 金谷地区村づくり計画策定の基本方針・・・・・・・・ 2

第3章 金谷地域について・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第4章 金谷地区の現状と課題（アンケート結果より）

※アンケートと評価を乗せる。・・・・・・・・・・ 3

第5章 地域の課題整理と実験的取組・・・・・・・・ 11

第6章 地域の課題を踏まえての将来像（目標）設定・・ 13

キャッチフレーズ 『ふるさとを守り育てよう。』

① 農業を軸に・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

② 高齢者を軸に・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

③ 自然環境を軸に・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

④ 歴史・文化を軸に・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

第7章 地域作りの推進に向けて・・・・・・・・ 21

参考資料他・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

・ 会議日誌 ・ 金谷沿革史他 ・ 策定委員会設置要綱

・ 策定メンバー ・ 村作り計画マップ他

第1章 はじめに

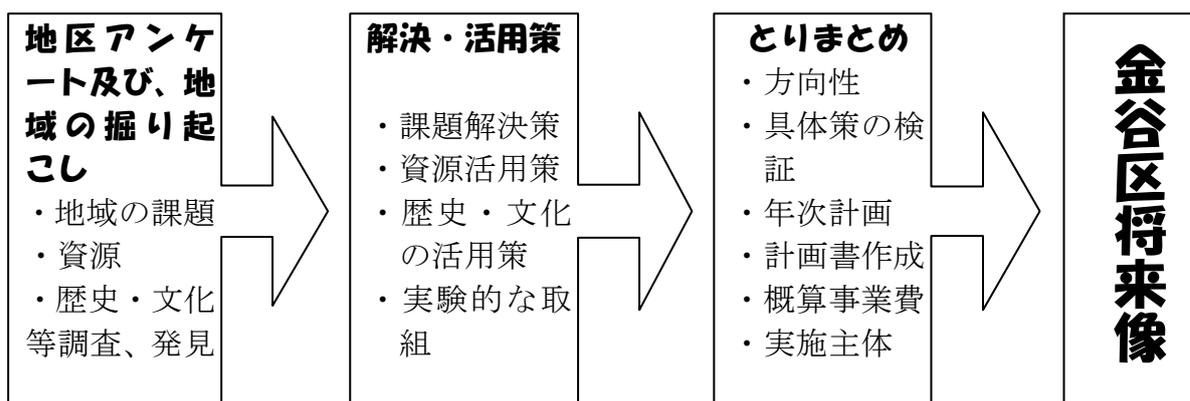
「金谷村づくり計画」は、金谷地区及び川上地域(京丹後市内)における現在及び将来に起こりうる様々な問題や課題を考えると共に、地域の資源等を再発見することによって、10年(20年)後の村づくりビジョン案を作り、その実現に向けて一步でも前進するための指針を示すものになることを願うものである。

第2章 金谷村づくり策定に関する基本方針

京丹後市の中でも農村風景を残す「金谷地区」の恵まれた自然・資源・歴史を再発見し、地域で抱える様々な課題を考えた上で、具体的で実験的な取組を行うと共に、今後の目指す将来像を探り、金谷村づくり計画を策定する。

「金谷村づくり計画」が策定されれば、金谷区に提言し、より具体性のある方向に進めたい。

策定の手順(平成22年1月～平成23年3月)



第3章 金谷地域について

京丹後市久美浜町川上地区は、京都府の最西北端の久美浜町の南に位置する。川上地域は、南北に細長く拓けた沖積平野で、ほぼ中央に川上谷川が流れている。8つの集落(市野々・布袋野・畑・金谷・市場・出角・須田・新庄)があり、そのほぼ中央に金谷集落がある。川上谷川の両側に、西組・中組・東組の隣組がある。山に囲まれ、東には、青地ヶ嶽(445m)。南奥には、高龍寺ヶ嶽(697m) 法沢山(644m)。西には徳良山(327m)等が分水嶺となり、出石、豊岡地方と境界となっている。川上谷下流の北は久美浜町海部地区になり、田園地帯がずっと開けている。

産業は、古くから農業と機織が中心だったが、織物業はめっきり少なくなりまた、専業農家も減り、殆どが会社勤めか、勤めが中心の兼業農家である。高齢化に伴い、年金生活の家庭も増えてきている。

第4章 金谷地区の現状と課題（アンケート結果より）

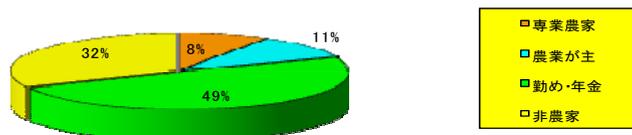
「金谷地区村づくり計画」づくりのための区民アンケート結果

（2010年6月3日 報告会レジュメ）

はじめに

参考資料1（アンケート調査表）の回答結果を基に、基本的な集計を行い、整理しました。アンケートの回収率は、約70%でした。男子29名、女子22名の方からの回答がありました。各家庭複数回答があり、多くの方々に回答していただきました。回答者の年齢は、50代から60代の方の回答が多く、その方々の意見が主に反映されていると言えます。

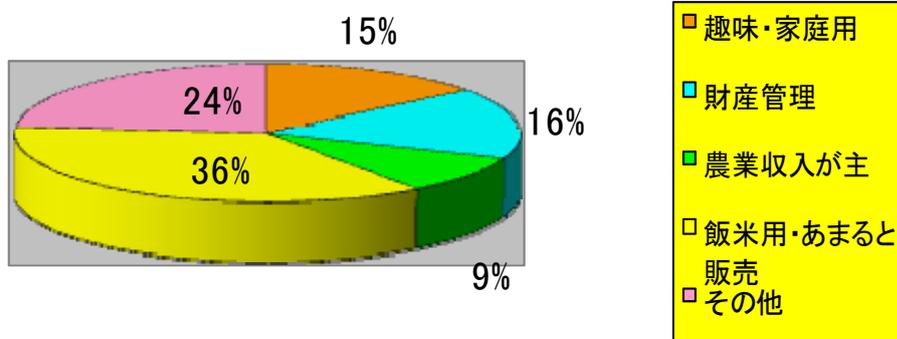
1. 現在の農業経営について



<評価>

兼業農家がほとんどの家庭である。しかし、他の所と比べて、20パーセントの家が農業を中心しておられる事は、すごいことである。

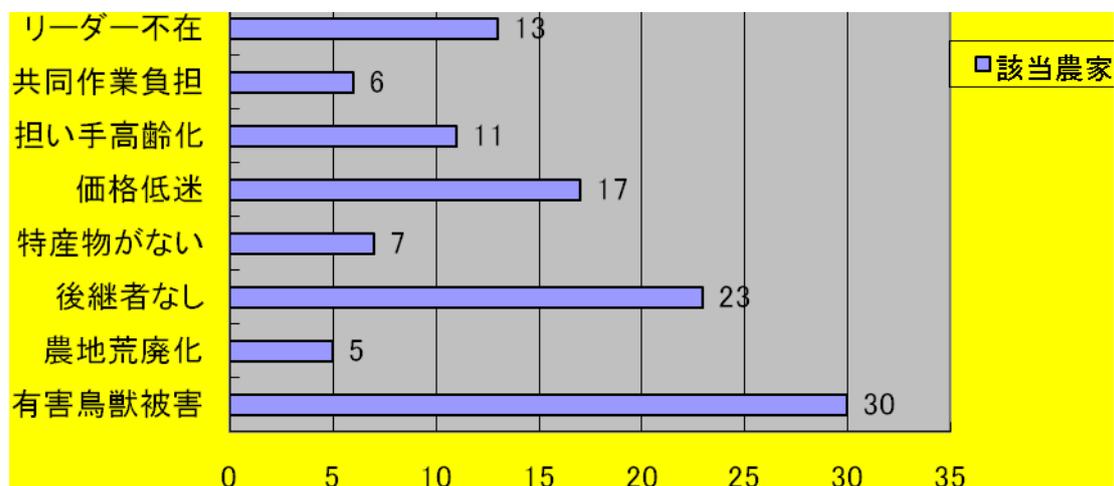
2. 農業経営の目的について



<評価>

金谷地区の農業は、他の地域と同じように、財産管理・飯米用・生きがいで農業をやると答えた方が全体の91%で、農業収入が目的の農家はわずか9%です。

3. 農業に関して最も深刻だと思われる問題について



【調査内容】

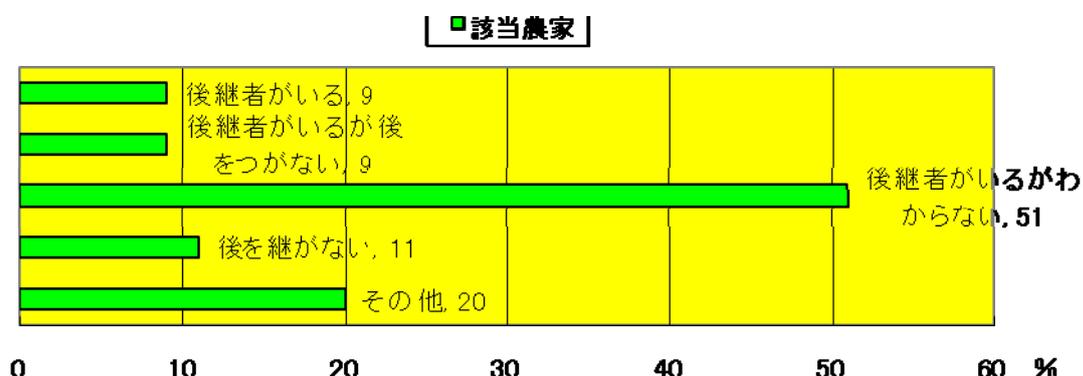
1. 有害鳥獣の被害の拡大 ①
2. 遊休農地や荒廃化の進行
3. 農業の後継者がいない ②
4. 特産品がない
5. 農産物の価格が安い ③
6. 担い手農家が高齢化し、耕作出来なくなる
7. 共同作業の負担が大変だ、参加しにくい
8. 農業リーダーの不在

<評価>

農業においては、全国的に課題になっている事が、そのまま当てはまっています。特に現在深刻な状況は、有害鳥獣被害による農業の意欲の減退。また、農業従事者が高齢化し、後継者がいない現実がそこまで迫って来ています。一方で、他の地域にはない農地の荒廃は、個人または、農家組合等の努力により現在では歯止めがかかっている。

農産物の価格低迷の中、金谷地区の農産物・米等をブランド化する取り組みも今以上に進める必要がある。有害鳥獣に対する対策は、地道に研究し、リスクの少ない方策を考える必要がある。

4. 今後の農業経営について（その1 後継者がいるか）



<評価>

現時点で、後継者がいるが、農業を継いでくれるのかわからないでいる家が多いようである。継ぐか継がないかは、跡継ぎしだいであるが、実際、後を継ぐ可能性は、どのぐらいあるのか。各家庭で確認する時期にきていると思う。跡継ぎが出来る仕組みを金谷地区として考えるシステムを作る必要がある。

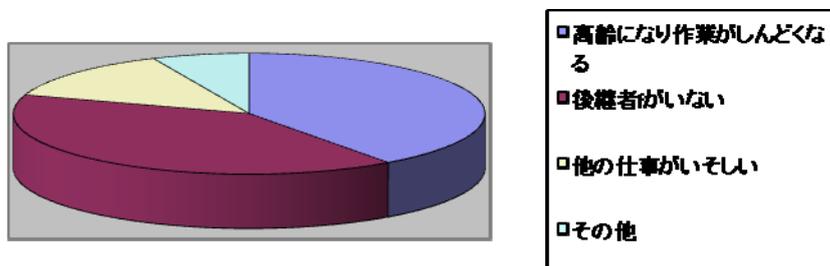
5. 今後の農業経営について（その2 水田はどの様にしたいか。）

| 項目 | 5年後 | 10年後 | 摘要 |
|----------|-----|------|-----------|
| 1. 拡大 | 0 | 2 | |
| 2. 現状維持 | 18 | 11 | その後はわからない |
| 3. 縮小する | 4 | 4 | |
| 4. やめる | 2 | 3 | 農業を教えてくれる |
| 5. わからない | 9 | 9 | 利益が見込めない |



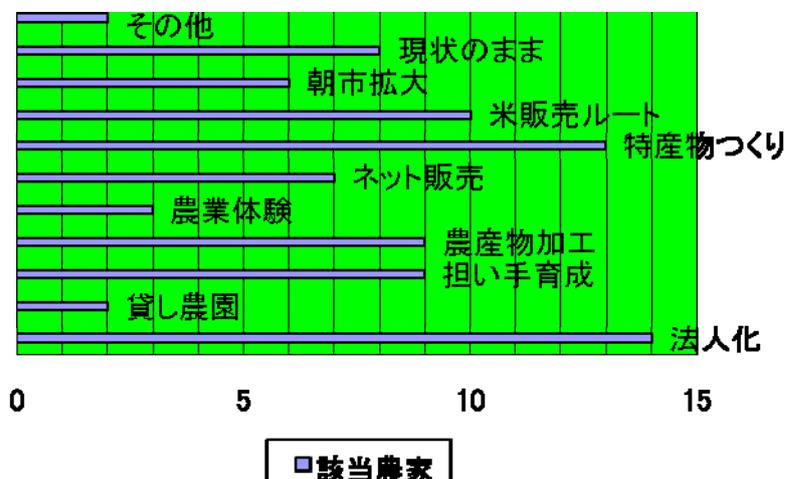
<評価>今後5年後・10年後の水田の管理はどのようになるか比べてみると、やめる人が少し増えますが、しばらくは、金谷の農業経営は、変わらないで推移するよう見える。規模を拡大してやろうとする前向きな人もおられる。

6. 縮小やめると回答した人の理由はについて



<評価> 高齢化で、作業がしんどい・後継者がいないが全体の8割を占めていますが、現時点で縮小やめると回答した人は少なかったです。しかし、今、金谷区として方向性を出す必要がある。

7. 金谷区として、農業振興、農地利用、組織等施策で必要な事は(複数回答可)。



<調査内容>

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 受委託の組織化、法人化① | 7. 金谷区の特産物作り② |
| 2. 貸し農園をする。 | 8. 米の特別販売ルート開拓 |
| 3. 新規就農者等担い手育成 | 9. 朝市の拡大、参加 |
| 4. 農産物、特産物加工 | 10. 現状のまま |
| 5. 都会からの農業体験 | 11. その他 () |
| 6. インターネット販売 | |

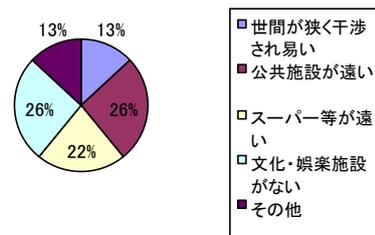
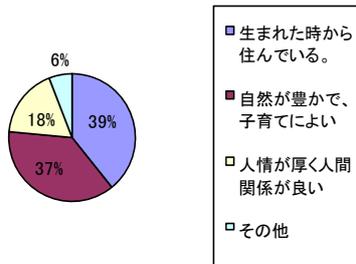
<評価> 金谷区民の方は、前向きに考えておられる方が多い事がわかります。特産物

つくりや米の販売ルートを考えておられる方、法人化を考えておられる方など、一歩でも目に進もうとしておられます。意欲のある方と共に具体的方法を考える必要があります。

8. 金谷区の住み心地アンケートの結果



<評価> 76パーセントの方が、「住み良い」、「どちらかと言えば住み良い」と答えておられます。「自然が豊かで、子育てによい」、結構住み良い地域である。生まれたこの地域が、もっと住みよい場所になるように地区として考える必要がある。



9. 環境・美化整備についてのご意見

| 項目 | 必要と思われる場所・箇所 |
|----------|---|
| 道路改修・舗装 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館～金谷大橋 ・ 三嶋田神社～市場 ・ 未修理場所全場所 ・ あらゆる箇所で凸凹になっている ・ 青地道 ・ 全農道舗装 ・ 林道を少し広くしてほしい ・ 区内主要市道東西線全線再舗装 ・ 金谷、市場市道全線再舗装 |
| 河川、水路の改修 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 水害に備えた防備、補強 ・ 橋の近く、他 ・ 川の中の草 ・ 子供が安心して遊べる川にしてほしい ・ 河川、水路全体 ・ ゴミを捨てないで下さい ・ 轟水路、畑境 ・ 川上谷川 |
| 広場・公民館等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 広場の草木 ・ 公民館のサッシの不具合が気になる ・ 広場、公民館の除草、土入れ整備 ・ 公民館のトイレを綺麗にしてほしい ・ 夏休みのラジオ体操は広場でしてはどうか？ ・ 区役員まかせにしないで有料化してもいいので担当の人をお願いする |
| 神社・仏閣等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 観音さん ・ 三嶋田神社、神輿修繕 ・ 三嶋田神社 ・ 三嶋田神社の草木 ・ 所在地に名所の立て札等を立てて頂くと意識が違うのでは？ |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 下水道整備 ・ 山中のゴミ ・ 風景を作る（農村風景） ・ 桜や花を植えたらいいと思う ・ 区民として口で仕事しないで身体で動く |

10. 高齢化のご意見



<調査項目>

1. 高齢者が働くことのできる環境作り。
2. 家周り等の環境整備。
3. 高齢者の知識や経験を活かす場作り。①
4. 区としての高齢者への仕事の提供（ケア）。
5. 病院への交通の支援。
6. 寝たきり、一人暮らし老人への在宅サービス。
7. 学習や趣味などの余暇の充実。
8. 在宅介護を担う家族のなどの負担軽減をする。①

<評価> 高齢者が増えて行く中で、高齢者が長年培ってきた豊かな経験がどこかで生かされることが重要になってきている。「団塊の世代」と言われる世代の地域での居場所や活動拠点作ること必要とされるだろう。また、より高齢者については、地区で誰もが出来る援助や補助を行う体制を考える事が、「地域の絆」をつくりキーワードになると思われる。

11. 金谷活性化のための取り組みのアイデア

◎ 金谷区の良さ(自慢できること)を思いつきでいいので見つけて見て下さい

- ・ ビニールハウスが多い
- ・ 金銭抜きでボランティアできる人が多い
- ・ 転作団地・共同化（機械等）
- ・ JA川上支店を有志で購入できたこと
- ・ そばに川があること、水の音に癒される
- ・ 他の部落より団結、まとまりがよいところがある
- ・ 川上地区の中心で便利（施設等）
- ・ まとまっている
- ・ 三嶋田神社

◎ 村づくりの提案やアイデアがありましたらお書きください

- ・ 桜の木を植え、桜の村にしていく
- ・ 水車小屋を復活し、粉引きをし、特産物をつくる

- ・ 農家民泊できる環境づくりをしていく
- ・ 農家と都市の交流をする
- ・ 地産地消を考える
- ・ 金谷は西、中、東と分かれているため交流が少ない面もあるので、全体が集まる行事（七夕？・・・）楽しく集まれるものができれば、そんな中から高齢者、子供、みんなの望むものも分かるのでは？
- ・ 配食センター
- ・ 集落案内板
- ・ システムは分かりませんが、小学校にも近いので学童を放課後あずかる様な所があればよいのではないかと思います。老人の方にも一緒に参加できるようにしてみたらどうですか。
- ・ 定期的な朝市だけでなく、常設マーケットにしてネット販売などを行う等、組織化する。

◎地域のことについて調べたり、学習したりする予定をしています。どのようなことが協力できますか（複数回答可）

| | |
|-------------------------|----|
| ① 地域神社仏閣めぐりに参加する | 10 |
| ② 家に残る地域の写真がお借りできる | 7 |
| ③ 金谷の小字名などのいわれを教えていただける | 4 |
| ④ 昔の道具を紹介、見せていただける | 2 |
| ⑤ 昔の道具の作り方を教えていただける | 2 |
| ⑥ 昔の「いわれ」を教えていただける | 1 |
| ⑦ 昔話をしていただける | 1 |

12. その他、ご意見

- ◎日帰り旅行等、老人から子供まで一緒に過ごせる行事があればよいと思います。
- ◎サラリーマンにとって休日はゆっくり休みたいので、行事を減らしてほしい。零細企業は休日が日曜日だけです。
- ◎老人会の人とゲートボールを楽しんでいます。
- ◎満70歳を過ぎると村役日役の免除をしてほしい。
- ◎子供が少なくなって子供会の行事が大変です。若い人が帰ってこられるよう、住みやすい村づくりが必要になると思う。
- ◎子供がいないので将来が心配。
- ◎農家組合の役員の負担（法人化等に対応できる知識不足と、経理決算のできる人の限界）
- ◎将来の婦人層の減速
- ◎金谷には若者が少なく毎年区農会の役員をせんなんで大変です。この先いろいろな団体の行事も人数不足で、できないことも起きるかもわかりません。不安に思います。若者が金谷に帰ってきてくれないかなーと思います。
- ◎今働き盛りの30代から50代の方は関心が薄いかもしれませんが、村づくりとか活性化は動かないと目に見えないので、できれば視察とか地域めぐりとか形式的なものでなく楽しく行動できるものを多くして、PRして多くの方に知ってい

ただき、協力をいただきみんなが同じ方向で村づくりを理解してほしい。

◎区民全体が写る写真を年に1回は撮って残す。

◎村の行政は行事や今までの仕事をそのまま受け継ぐだけでなく、空き家や老人家庭について、結婚等についても常に話題に乗せて話し合うことが大切だと思う。隣組の集まりで、そのような話し合いを常に持ち組長が区にあげるとよい。

第5章 地域の課題整理と実験的取組

1. 地域ふるさと再発見の取組

「金谷地区歴史散策会」

日時：5月16日（日）午前9：00～午前中

目的：地域の文化・歴史遺産を知り村づくりのヒントとする。

散策コース：

公民館→→→金谷城→→愛宕さん・秋葉さん他→→八龍さん

→三嶋田神社→→地蔵さん→→観音さん→→不動さん→薬師さん

→→公民館



金

谷地区には、別紙資料（金谷の沿革）にもあるように、多くの神社仏閣及び史跡が残っている。この史跡をまず地域の方に知ってもらおうと共に、整備し残し

て行く活動やかつて盛大に行われた祭りを復活していく取り組みや他地域の方にもその良さを知ってもらうための具体的な活動を起こして行くことを確認した。

その実験的な取組として、薬師さんの例祭（7/7）が、ちょうど『七夕』の日になるので、子供会によって七夕飾り作りを行い、子供たちもこのお祭りに参加してもらう取組を行った。また、当日の夜は、竹筒にろうそく入れ、参道をライトアップする取組を行うと共に、当日の夜、参拝者と共に、金谷の将来について語る座談会をおこなった。（※子供の七夕つくりの様子）



また、観音さんの祭礼（7/17）においては、十数年前より、地区の青年を中心としたグループ『青地会』が夜店を出し、この祭りを盛り上げてくれている。



しかし、近年年齢と共に、『青地会』のメンバーが少なくなって来た現実もある。また、先ほどの、「七夕飾り」に参加する児童の数も数えるくらいしかいない。このように、青年層や少子化の問題や農地の荒廃や鳥獣害の問題も、地域を散策の取組をすることによって再認識されて来た。

2. 策定委員による懇談会

策定委員会でのアンケートの検討及び報告会を4月には行った。その後、策定委員会で金谷区の将来像等についての話し合いを何度かおこなってきた。委員会のメンバーで独自で視察にも行った。また、インターネットを利用し、情報を仕入れたりした。それぞれの立場で、参考になる資料を入手しようと努力していただいた。その後、策定資料が少しでも役に立ち、金谷区の将来のビジョンの参考になるように、金谷区の沿革史的内容も入れる方向で話し合いがされた。



第6章 地域の課題を踏まえての将来像（目標）設定。

キャッチフレーズ 『ふるさとを守り育てよう。』

- ①農業を軸に・・・『ふるさと』として、農業を中心に金谷区の活性化を行う。若者が就農し、働く場所として位置付く場とする。
- ②高齢者を軸に・・・元気で楽しく安心して暮らせる地域にする。中高年の働く場所、余暇を過ごす(生き甲斐のある)場所とする。
- ③自然環境を軸に・・・自然を守ることを意識し、その地域の良さを守ると同時に、地域の良さを紹介し、「ふるさと」として自慢できる地域作りをする。
- ④歴史・文化を軸に・・・「ふるさと」を守り育てるために、地域の文化を守り、発展させて行くための積極的な取組や歴史遺産を残し伝える取組をする。

農業を軸に

① 農家の法人化による不耕作地や荒廃地の防止

現在金谷地区には、「金谷農家組合」がある。しかし、今の状態では、将来の農業の高齢化に対応することが出来ない。そこで、新しく農事組合法人または、株式会社を立ち上げて行く必要があると考え、他の地域の実態に学ぶ為に、過日(2月・3月・6月)と策定委員会及び、農家組合役員・区役員等に集まっていたき、学習会を開いた。今後の方向性としては、何らかの形で法人を立ち上げて行くという方向性は出た。策定委員会としても、農家組合や区に対して、前向きに検討することを提案する。



具体的には、この5年以内の展望として、法人を立ち上げ、地区内の不耕作地や荒廃地をなくし、川上地区の不耕作地を減らす方向で、規模を拡大していく。また、新たな就農者や農村移住者を増やす取組として発展させる。

② 地域周辺山林の雑木の伐採

今年は、家の近くまで熊が出てきた。頻繁に猪や鹿を家の近くで見られるようになった。昼の間は、里山の近くに潜み、人影がなくなれば出てくるといった環境に村がなっている。隠れる場所もすぐ近くにあることも原因している。

以前に、金谷地区も金網で地区を囲んだが、段々と効き目が薄くなった。そ

の点からも、農地周辺の山林を整理し、動物の隠れ場所を減らすと共に、防護柵が見え、修理補修しやすい状態にすることが大切だ。また、日当たりをよくし、農地を守る意味からもやる必要はあると思われる。

③ 道路、排水路等の整備

中山間の補助事業の継続にともない、計画的に進める。

④ 特産物作り(加工品)・付加価値のあるお米作り

過日7月に、金谷地区として、地域で作られている野菜類を利用した特産品が出来ないか、公民館で、にんにくを使った焼き肉のたれ作り・トマトジャム作りをおこないました。実際に作り、瓶つめにする難しさなどを体験した。

この実験的な取組は、この地区で採れる特産物をうまく利用して加工品を作る事が出来るのではないかという展望が持てた。そのためには、加工できる施設を作る必要が出てくる。旧JA施設を利用する事も視野に置いて、具体策を検討して行きたい。

また、現在特別米として「金谷米」を販売されている農家もある。値段的には、まだ安いですが、ブランド米としての「金谷米」を販売拡大する方策を考え、そのルートを作りたい。



⑤ 電気柵、防護柵の設置や修理

地域で狩猟等の免許を持つ人を増やすと共に、鹿や猪を食用等に利用する方法も考えながら、対策を考えて行く。

以前に張った防護柵も痛んで来て、管理がうまく出来てない場所がある。電気柵及び防護柵の新たな設置を考える必要がある。

⑥ 農村体験の計画

以前にJAの計画で農家の民泊が行われたことがあった。2年だけでなくなりしたが、近年の農業体験は、都会の人にとってニーズになっているというニュースも聞くし、また、グリーンツーリズムや都市と農村の交流も盛んに行われて来ていることを考えると、民泊や体験交流の出来る体制を作ることが出来れば、一時的になるかもしれないが、「第二のふるさと」として「癒しの場所・都会にない空間」とすることができ、地域の活性化に結びつくと考える。

都会からの農業体験ツアーをJAの協



力の元、春の田植えと秋の稲刈りと年2回開催することが実際に出来た。農業を通して、都会と交流する方法は他にもあると思うが、より計画的に具体的にやる事が次ぎへのステップになる。

⑦ 直売所の充実・地産都商



金谷では、平成17年から「川上村」ふれあい朝市をおこなっている。直売所や田舎の村づくりのイベント会場を見学に行き、その実態を知ることが、「朝市を利用した村づくり」としての参考になるのではないかと考えた。過日(7月福知山雲

原・8月綾部市・9月滋賀県守山市)、直売所及びイベント会場を視察見学に行った。その一つの綾部については、フリーマーケットの店が集まり、店を出す中に、野菜の販売もあり、おにぎりの販売もあるといった形態でした。しかし、何よりも地域のイベントを楽しむと共に、前向きに地域を考える人たちがいて、元気でした。また、この地域に都会から移り住んだ人が多いのも大きな特徴だった。また、「JAおおみんちの直売所」の見学では、大きな店舗で、多く品物がそろい、郊外はもとより他府県からの集客があり、品揃えも多い中での販売で、口コミで広がっている感じもうけ、近くに農園もありその場所で買い物以外の体験も出来た。(※店長から直接お話を聞くことが出来た。)どちらも、直売所を経営していくために参考になることがあったが、クリアしなければならない課題は多くあった。

金谷の場所でおこなわれている朝市も何とか6年目をむかえ、続いている。これを「金谷村づくり」の一つの柱に発展させていく方向としては間違っていないと思うが、そのためには、「都会と結びついた田舎」として、他にない特徴のある朝市や直売所として位置づける必要があり、そのためのアイデアを考え実行する集団が必要です。

また、一部の農家ですが、都会に販売しに行く計画をされている。このことも地域「丹後の久美浜の金谷」を知ってもらうために必要ではないだろうか。イベント会場に積極的に参加することによって、この地域をより知っていただけることも可能になる。



⑨就農者を呼び込む具体策。

就農者を呼び込むためには、大胆な提起が必要である。農業体験だけでなく実際に農地の確保や住居を確保など具体的な行動を起こしていきたい。そのためノウハウを学ぶ体制を作る。

「高齢者を軸に」

①高齢者のための「生き甲斐」活動

金谷地区の高齢者の比率も結構高い。引退し若者に地区の将来を託すといっても、託す若者がいない現実がある。このことは、高齢者自らが自分の将来について考えていかない限り地区の将来は解決しないことになる。

だから、高齢者で、60才～70才を少し過ぎた人で、まだ自分の活動を地域のために十分発揮出来る人たちの居場所を作る必要がある。そのために大切なことは、高齢者と共に若者が同じ土俵で、考えを出し合い、議論を重ねることです。なぜなら、自分たちもやがて老いて行くわけであるから一緒に考えることが大切なのである。

②高齢者との交流や高齢者から学ぶ会をもつ(昔の手作り道具を継承しておく)

普段生活の中に、生活の知恵と呼ばれるものが多くあるはずだ。先ほども高齢者の生き甲斐としての思いを述べたが、高齢者より学ぶことは、金谷地区の歴史そのものを学ぶ事になる。高齢者が今までに培ってきたいろいろな技は、現在のエコ生活や健康生活に通じるものがある。

例えば、藁から作るしめ縄や草履などの作り方は、今のうちに継承をしておかないと誰も作れる人がいなくなる。他にも家庭生活の中で、昔使われていた道具の使い方や漬け物などの加工品などの作り方は、全て役に立つものではないかもしれないが、学んでおかなければならない。地域再生のきっかけになる物が含まれているかもしれない。

その一つとして、朝市での『ばら寿司』づくりは、まさに、地域に高齢者からずっと引き継がれてきた食べ物だ。お祝いや祭りの時の定番が、商品として売られているわけだ。このことから、高齢者の智慧をおろそかにしてはいけないと思う。

今の世の中、便利になって来ているかもしれないが、昔の風習や生活の中に現在でも役に立つ事がたくさんある。その事を今、学んでおかなければならないと思う。

具体的には、『川上地区の正倉院』として保存継承する場所と資料を確保することを提起する。

③高齢者を守るための取組

高齢者の一人暮らしの家庭への声かえ運動を行う。この地域でも突然亡くなられ、すぐに発見出来なかった場合があった。もし、災害時だけでなく、普段

から声をかける習慣があれば、亡くなられなかったかもしれない。今後このような事が起こらないように、普段から声をかけるための、具体的な方法と手段を地区として考えておく必要がある。災害時の声かけマップの作成も考える。

高齢者との普段の関係を結ぶ意味で、『ふれあいサロン』等の活動を、自主的に組む必要もある。また、例えば朝市グループによる配食活動など、老人会ともタイアップしながら良い考えを出していきたい。

④高齢者より、伝統食の作り方を学ぶ。

地区の中に、以前からお祭りなどでは、「ばら寿司」が作られて来た。それぞれの家庭で作られる色々な料理は、代々家庭で受け継がれている場合もあるがそうでない家庭もある。だから、家庭によっては、「ばら寿司」の作り方が分からない人もおられると思う。そういう時代になったと考えたらそうなのかもしれないが、その地域の食材をうまく利用した伝統食を残す事は、とても大切だと思う。

そこで、活躍するのが、地域の高齢者です。家庭だけでは守れないおいしい伝統料理を地域として受け継いで行くことは、価値のある事だと思う。その具体化を行って、残したい。正月料理などを中心に、旬の食材を使った料理教室を開きたい。

『自然環境を軸に』

①自然をふやす「花・木・虫・魚いっぱい」運動

老人会が中心になり、すでに「花いっぱい運動」が行われ、金谷の農道が、華やかになった。水や草取りなどの世話が大変だという課題も出てきていますが、このことは前向きな取組として評価出来る。地区として、このように花や木々を植えようとする動きはある。

一つの提案として、「地区を囲む桜道」を作り、地区全体で管理していく。地区の荒廃地や畦にも、草刈りの軽減や美しい景観を作る意味で、植物を育てていく取組を具体化して行きたい。

また、昆虫や魚は、農薬が減り環境が良くなる中で増えて来る。この地域もコウノトリが飛来し、ホタルが飛び交う場所がある。しかし、現在、地区として、意識してその環境を守っているわけではない。農薬や除草剤を实际使っている。作物作りの関係も把握しながら自然環境の良い農村を作ることは、時代の流れと共に大切なこととされてきている。

農薬を減らしたお米を栽培しようとして努力されている農家もあり、実際に、田んぼの生き物が他の田んぼより多くみられるようになって来た。このように自然環境を守る意識の高さは、以前と比べものにならないくらい高くなっている。

そこで、今までのように、個々がバラバラの状態では自然環境や地区の美化の事を考えるのではなく、区取組として位置付け、将来を見通した活動を行うことが大切であり、早速来年度の区の活動に提起していきたい。

具体的には、個人の家ですが、絶滅寸前の「メダカ」を増やしておられる方がある。その方を参考にして、身近なところでは、メダカを増やす取組を行う。田畑に生息する昆虫や魚などの生態系を調べる活動を行う。農薬の散布についても、農業をされている方と相談し減らしていく方向で話し合いを進める。

②地域あげての環境整備

金谷地区として、建物や木々も含めて今まで以上に美しい自然環境作って行く事が大切である。

生き物がたくさん生息する環境を作る取組をすることによって地域の環境を意図的に守っていく。ホタルの住む大川や中川にする。また、鮎の住む大川。そして、メダカが育つ各家庭。また、花や木をいっぱいにする道路や自然の植物が育つ地域として、休耕地や畦などを利用して環境づくりをしていく。たとえば蒔やハーブや薬草を育てる。生き物だけでなく、地域にある家や建物や木々なども含めて守っていく。



③河川の利用と清掃。(川遊び、川を使った行事)

毎年の河川清掃をおこなっていますが、川で魚を取ったり、川で作業をしたり、遊んだりすることは殆どなくなりました。夏の時期になると殆ど水がなくなり、雑草が川の中に生えるような状態が続き、川岸も草が生い茂ったりしているし、川岸でイベントが開けるような環境ではない。

しかし、以前に、金谷大橋の下で、まだ、雑草が生えてない時に、『灯ろう流しの行事』や『花火大会』をしたことがあった。夏に見学に行った福知山雲原の村おこしの取組は、川を利用して、川の中を上流に向かって転がす「ドラム缶転がし競争イベント」を行う事によって、川を利用して、守っておられた。

川遊びや行事が、年に一度は出来るような環境を作ることが、自然環境を守る取組の一つとなるでしょう。

魚が増える取組と合わせて、「鮎」を放流することがこの何年間されてきた。しかし、どのくらい定着したかは定かではない。鮎のえさのこけが生えるような岩場はないからだ。でも挑戦したことはすばらしい。

④農業体験と交流。

農業体験や都会との農業体験交流は、自然の環境の良さや農村の風景の中に、「ふるさと」を感じ、自然とふれあうことの心地よさを感じるからだ。その場所として、この地域を提供することが出来るのではないかと考えている。すでに、多くの地域で行われているが、一つでも二つでもこの地域でおこなうことで、新しい風が吹く。地域の人の協力がなければ出来ないが、次へのステップとして挑戦してみてもと考えている。

⑤自然環境を意識した、生活作りの学習

ゴミを減らすための努力を地区として取り組むことは大切だと思われる。今は、各家庭での取組になっているが、家庭からでる排水を意識し、洗剤の種類や量などなどやゴミの処分の仕方やし出し方の交流をして、分別をきっちりと取り組む地区として、先進を切ってもいいのではないだろうか。

『歴史・文化を軸に』

①金谷史跡の紹介看板

金谷地区及び川上地区の史跡を紹介する看板を立てることによって、地域のよさを再発見し、再資源として利用していくきっかけ作りにする。金谷地区だけでなく、川上地域に広げたいと思う。川上地区活性化協議会との協力が不可欠になる。

②金谷城跡の整備（金谷からの登り口を作る）

川上小学校では、以前歴史の学習で、この城跡に登り、PTAの方々に整備をされてことがあった。それ以来整備はされていないが、見晴らしの良い場所だ。

昔のお城跡だが、登ると戦国時代の戦いの様子が浮かんで来る。また、山に季節ごとに登れば、川上平野の四季を感じ、田舎のよさを実感する。自慢できるスポットとして残しておきたい。その整備を進めていきたい。

また、昔から地区に残っている言い伝え（伝説）を残しておく作業も、今回出来なかったのも、今後の取組として高齢者の方々から地区の歴史を聞く『言い伝えや昔の智恵を学び会』を開きたい。

③子安さん・観音さん・薬師さん等の継承発展

地区のお祭りは、高齢者問題や少子化により、このままでは縮小するか、出来なくなる地区もあると聞いている。また、実際にお参りに来られる方も以前と比べれば減っている。以前のようなにぎやかさを取り戻したいと思う方もあり、ずっと受け継がれてきたものだから、守っていきたいと思っておられる方もある。

金谷地区としても祭りを前向きにとらえた。観音さんの祭り（7/17）では、青地会メンバーが夜店を出し、薬師さん（7/7）では、子供会の七夕飾りや懇親会（金谷の将来について話し合う会）をおこなった。また、春の三嶋田神社の祭では、副餅まきがおこなわれ、子安さん（10/18宵宮）では、以前から、安産のための椿の木のくぐり抜けがおこなわれていた。このように、地区のお祭りを積極的に継承し発展させることを考えていきたいと思っている。

この事を地区内外に紹介すると共に、他地域の伝統的な祭についても参加し、紹介出来るパンフレット等を作成することも視野に入れて取り組む。

10年・20年と継承し発展させる事により、新たな展開や祭りのやり方も

変わってくるのではないかと思われる。

④特産物作り

農業の振興のところで述べたが、金谷地区だけでなく川上地区全体を視野に入れて特産物を生産する里としての「農産物のブランド化」を考えていきたい。「コシヒカリ」や「黒豆」の生産は、京都の中でも大きな産地になっている。このことからしても、この地域が丹後や京都の農産物の主要な産地になっている。他地域と比べれば農業をアピールする条件はそろっている。以前、東京の方に、「京都の食べ物と言えば何ですか。」と聞いたことがありましたが、「京野菜」と返事が返ってきた。京野菜の多くがこの丹後で栽培されている現実からするならば、「新京野菜の里」として、この地域をアピールする計画を立ていきたい。

また、金谷地区として、いや川上地区として、特産物の加工品を作り出す計画を行う。今回の会議の中で、実験的な取組として、「トマトジャム」や「んにくを使った焼き肉のたれ」を作って地域の方に食べてもらった。今後、より具体的に何が出来るのか試作品を作る活動をスタートさせたい。

幸いにも、現在地域の中に、朝市の婦人の有志の方々がおられるので、協力をお願いして挑戦をしたいと思っている。次のステップとして、加工施設を作り整備したい。

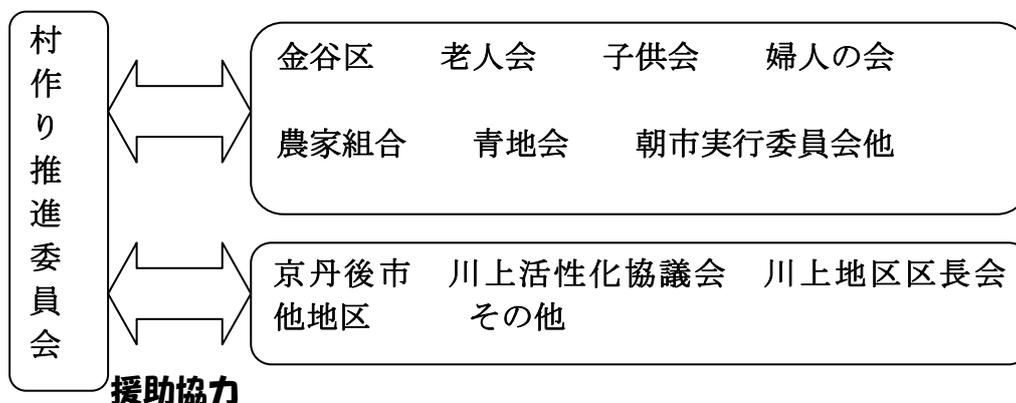
⑤昔の農村風景を残し、作ることの大切さ

金谷の歴史を感じるものが段々と壊れてなくなっている。古い物は壊せばよいといった発想ではなく、地域として何か守っていくものがないか考える事が大切だ。なんと言ってもここは「田舎」だから、「都会」にないものがあることが、心を癒してくれると思う。そういった昔の農村風景を残す取組を地区として考え、見つけ、指定し、整備する計画を立てる。

第7章. 地域づくりの推進に向けて

金谷地区の村づくり計画を具体的に進めていくためには、まず地区民に理解していただき、金谷区民が色々な立場で現状や将来を見据え、より多くの方々に協力をいただかないと出来ない。そのためには、今ある団体や区がそれぞれの立場で検討し、可能なことから順次実行して、進めていきたい。しかし、「金谷村作り計画策定委員会」は推進していく母体にはなりにくいので、新たな組織を作り、「金谷村づくり推進委員会（仮称）」を設置し、各種団体に参加していただき推進していきたいと思っている。また、金谷地区だけの課題とせず、川上地区全体の課題として提起していきたい。

1. 金谷村作り推進委員会の関係



2. 具体的な計画・実施事業（23年～32年）

農業を軸に

- ①朝市の拡大と直売所の整備及び集客を拡大するための手だて
 - ・ビラ・幟の作成
 - ・イベントを開催するための情報発信
 - ・朝市（金谷区）のインターネット紹介
- ②農産物加工施設の整備と準備
 - ・特産物を作るための、試食品作り
 - ・ばら寿司の販売の拡大
- ③農業法人化の立ち上げと受委託作業の取組
 - ・発起委員会の設置
 - ・農地の荒廃を防ぐための方策検討
- ④農業体験ツアーの実施拡大
 - ・農家民泊の計画
 - ・農業体験メニューの作成
 - ・田舎での婚活
- ⑤都会で農産物の販売
 - ・販売のルート
- ⑥就農者を受け入れたための準備
 - ・農地の確保・民家の確保
- ⑦獣の被害をなくすための里山整理

高齢者を軸に

- ①高齢による「昔の智恵を学ぶ会」
 - ・農業体験（稲刈り・田植え）や朝市での活躍

- ・家庭の味を紹介する会
- ・藁細工などの作り方の講習会
- ②一人家族見守り隊の組織化
 - ・病院等に行くときの車を出してもらおうボランティア活動
 - ・災害時の対応マニュアル作成
 - ・食事の宅配を考える

自然環境を軸に

- ①ホタル・鮎・メダカが住む金谷地区にする
 - ・メダカの飼い方を学ぶ（家庭で飼う家を増やす）
 - ・ホタルが生息するための環境整備
- ②集落の景観を美しくする取組
 - ・畦や川の整備
 - ・河川の清掃
- ③桜を地区の周り植える

『歴史・文化』を軸に

- ①祭り継承・発展させる
 - ・宵宮での催し等おこない発展させる
- ②地区を案内する看板を作る
 - ・地区を案内するパンフレット作り
- ③昔の元風景を残す取組をする
 - ・写真を撮り残す
 - ・古農具等を残し、川上正倉院の復活を行う
- ④空農家の保存
 - ・地区としての管理を検討する

参考資料

金谷村作り策定委員会の策定経過日誌

| 年 月 日 | 会 議 及 び 実 施 内 容 | 備 考 |
|--------------|-----------------------------------|-----------------|
| 21年11月 | 策定メンバーの選出・申請・規約作成 | 区として |
| 22年 1月17日 | 策定委員会の承認 今年度分予算承認 | 区総会にて |
| 2月12日 | 第1回策定委員会 | 委員長選出 |
| 3月17日 | 第2回会議 ・京丹後市より ・活動計画の作成 | 京丹後市吉田さんより概略の報告 |
| 3月22日 | 農業問題についての話し合い ・法人化について | 鹿野地区農事組合法人より |
| 3月28日 | 第3回会議 アンケート項目検討・アンケート配布 | |
| 4月14日 | 第4回会議 アンケート回収と集約 | |
| 5月16日 | 金谷地区再発見歴史散策会 | 区民対象 12名の参加 |
| 5月20日 | 第5回会議 アンケート報告会の計画 | |
| 6月 3日 | アンケート報告会 | 区民対象 17名 |
| 6月20日 | 第6回会議 ・報告会を受けて・視察について | |
| 7月 7日 | 薬師さん金谷地区の将来について座談会 | 区民対象 10名 |
| 7月19日 | 村づくりイベント（福知山雲原）の見学 | 委員会対象 |
| 7月24日 | 特産物作り講習会・トマトジャム作成 | 婦人対象8名 |
| 8月21日 | 綾部志賀郷三土見学・里山ネット見学 | 委員会5名 |
| 9月23日 | 視察 滋賀県 JAおうみんち直売所 熊川宿 竜王町農村資料館 | 区民対象 30名 |
| 11月 8日 | 第7回会議 視察の反省及び資料作成 | |
| 11月17日 | 第8回会議 村作りマップ作成 | |
| 12月18日 | 第9回会議 今後の日程 | |
| 1月24日 | 第10回会議 原稿検討会 | |
| 2月14日 | 第11回会議 原稿検討会 | |
| 2月24日 | 第12回会議 今後の日程について | |
| 3月 2日 | 策定案について区役員会に提案 | 区役員対象8名 |
| 3月18日 | 報告会 | 区民対象25名 |
| 3月25日 | 製本・印刷 | |
| 3月31日 | 区民に配布 | |

金 谷 の 沿 革

金谷集落は、京都府の最北西端に位置する京丹後市久美浜町に所属し、旧村名は川上村呼ばれ、金谷は旧川上村に属する小さな集落である。

南に高竜寺ヶ嶽(697m)と法沢山(644m)を望み、東に青地ヶ嶽(445m)を頂き、西に徳良山(327m)を仰ぐ川上谷の中山間地から平野に移る場所にあります。上流は畑集落に、下流は市場集落と須田集落と境を接し、旧川上村の中心部に位置する集落として政治、経済の中心として、諸施設が集中する恵まれた環境のなかで経過してきました。

地勢は、集落の中を流れる川上谷川によって拓かれた耕地が展開されており、古来から明治に至るまで農業を中心として、農耕(米・麦)や養蚕、さらに役牛(和牛)の飼育を生業として暮らしてきました。

しかし近年では、農業は米の生産調整による作付けの縮小、施設栽培への転向を余儀なくされるなど、縮小傾向が続いております。

この、経済環境の変貌は、農業後継者をなくし、他産業への就業者の増大をもたらすことになり、現在では昼間人口の減少は過疎化現象を惹起しています。このような少子・高齢化の現象を放置すれば、ここ数年で限界集落と呼ばれる集落に位置づけられることは必定で、いま、まさに将来の金谷集落のあるべき姿を模索し、集落の活性化策を樹立しなければならない時がきているといえます。

この項では、連綿と営まれ、伝えられてきた歴史の一端、経過を伝え、村づくりの一助となればと纏めてみました。資料が乏しく、また、文献を的確に理解することなく、一部独断的な解釈を含め纏めて見ましたが、参考の一助となれば幸いです。

1 弥生時代の金谷

金谷集落の起源、最古の状態を知る資料として、西谷遺跡の発掘調査の報告資料が残されています。

西谷遺跡は、竪穴住居を立てて人が住み、集落が存在していたことを証明しております。また、その遺構・出土品からは弥生時代(紀元前 300～300 年)の建築様式と判断されており、金谷集落の誕生を知る手がかりと推測できます。

☆ 西谷遺跡 〈 ~300 年〉

西谷遺跡は字金谷小字西谷から発掘されています。

主な遺構は竪穴住居一棟である。この竪穴住居は平面形が円形で、直径は8メートルを測る。周壁に沿って回壁溝が廻る。周壁溝内からは直径8～10センチほどの杭穴が検出され、周壁の板を押さえた杭であると報告されている。支柱穴も一部検出されており、最も深いもので床面から約1メートルを測るものがある。中央には中央土杭があり、灰が堆積している。中央土杭の東側には焼土が分布している。床面には黄色粘土の貼床が施されている。住居の床面からは弥生時代後期後葉～末の土器群が出土した。住居の埋土上部からは古墳時代中期前葉の土器群が出土した。

このほか、小字マガリの古墳のものと見られる須恵器蓋坏・高坏や包含層から飛鳥時代に属する須恵器坏B、鎌倉時代の黒色土器碗・土器皿が出土しています。

なお、このほか同時代のものとして、青地谷遺跡(東金谷の青谷、堂谷、ケンケン寺

と尾根筋には古墳と台状墓が数多く存在する。)などがあり、現在は畑地となっていますが、集落跡だと思われます。

なお、畑地の地名は「小三郎」といいますが、これは中世から近世の人との関係であると思われる。

【その他の古墳群】

上西谷古墳群 下西谷古墳群

下西谷横穴

青谷古墳群

堂谷古墳群

ケンケン寺古墳群 などが確認されていますが、何れも住居跡と思われます。

2 古墳時代の金谷

古墳時代(300~650年)の金谷の状況・姿を類推する物証は発見されていませんが、隣接する集落では須田の湯船坂古墳を始め、畑集落には大塚古墳が、布袋野集落においては経塚古墳が発掘されており、往時の豪族を中心とする集落の存在が確認されています。

特に、湯舟坂2号墳は古墳時代後期の須田を支配する豪族川上麻須の墓といわれますが、川上麻須は都の朝廷との縁戚関係を有するなど、権勢を誇った大豪族であることが知られていますが、一方、三嶋田神社の由緒には、「式内社にして其の創立最も古く、丹後一覽記丹後舊事記等によるに、垂仁天皇の代川上麻須の勘請に係れるものにて」と伝えられていることから、金谷集落との関わりが想像されます。

飛鳥時代(592~710)に入り、7世紀半ばに「大化の改新」が実施され、土地を全部国有化するとともに、国民一人ひとりに土地を耕作する権利を与え、中央政権は租税を納める義務を課し、中央集権の強化と安定を図りました。

しかし、土地の国有化も恩賞や開墾地の私有を認めるなどのことから、やがて権力者や神社・寺院などが土地の所有を拡大していくことになった。

3 中世の金谷（荘園支配）

中世(奈良、平安、鎌倉、室町、安土・桃山=708~1596)の金谷を知る資料はなく、「久美浜町史」に記載されている内容から類推せざるを得ませんが、「久美浜町史」においても、文献史料はほとんど僅少で、久美浜独自の社会情勢を知ることはできません。

わずかに、奈良時代の残る木簡に記された田村郷中男の作物(税)が海藻であり、川上郷からは赤米が貢進されたことは、奈良時代の人々がどのような生活をおくっていたかを知る貴重な史料であるといえます。

平安時代の延暦11年(792)6月、諸国軍制のありかたが改められて、これまでの徴兵による農民兵中心の軍団から、諸国郡司の子弟(健児)を採用する方式へと転換されました。

このようななかで、久美浜においても荘園制度のなかで、京の権門とを取り結ぶ在

地勢力うまれて、やがて国地頭を置き兵糧米の徴収が課せられるようになります。

ただ、室町幕府(1384～)が戦争遂行のために荘園領主が単独で支配する荘園年貢の半分を守護などを通じて幕府方の武家に給与する「半済法」などを根拠に、武家による荘園支配の強行がしばしばみられるようになっている。川上荘では地頭で丹後守護代である上杉氏や岩間氏などの武家と、農民との争いも起こるようになったものと思われま。

「丹後国惣田数帳」は鎌倉時代後期の正応元年(1288年)に丹後国内の荘園・公領の名称、田積、領主を総覧する目的で作成された土地台帳で、現在は長禄3年(1459年)にその時代の状況を記載した台帳が遺されている。

川上の荘園と領主 (単位：町歩)

| 荘郷名 | 田積 | 領主 |
|-------------------|----------|------------|
| 川上郷 38.4.041 | 18.3.250 | 公文分氏家遠江 |
| | 5.6.000 | 建仁寺 |
| | 5.6.000 | 武部次郎 |
| | 8.8.151 | (不知行) |
| 川上本荘 107.9.190 | 1.6.000 | 大雲寺 |
| | 50.2.284 | 延永左京亮 |
| | 26.9.320 | 長福寺 |
| | 26.9.320 | 伊勢肥前守 |
| | 2.1.031 | 保田中務・永田又四郎 |
| 川上新庄 40.7.252 | 20.3.306 | 伊賀次郎左衛門 |
| | 20.3.306 | 駒沢備後守 |

※ 伊勢肥前守は金谷城主である

川上本庄・新荘ともに川上郷に成立した荘園で、現在の川上のうち川上谷川中・上流域を中心とした地域に展開したものと考えられる。「新庄」は川上新荘の故地である可能性がある。川上本荘は、中世史料には京都梅津長福寺の荘園としてあらわれ、鎌倉時代後期に地頭との間で下地中分（荘園年貢の配分に応じて下地を分割し分有すること）がおこなわれ、『長福寺は川上本荘の領家方を支配領有することになった。しかし、この領家方もさらに南北朝時代に守護代でもあった地頭上杉氏の押領が進み、遂には領家方がさらに二分されて本主方（領家方）と給人方（地頭方）に分有される。ただ、川上本荘の旧領家方有力百姓らは領主側の都合による分割を喜ばず、むしろ年貢を百姓らが請負うかたちで本主・給人に納入することを領主たちに認めさせている。

畑城主 野村家 (1338～1583) の支配

畑城（金谷城）は、当初伊勢肥前守の居城として築城されたが、その後、野村家が、暦応元年(1338年)野村主計頭源忠興が軍功により、足利氏から恩賞として丹後一円1万石を拝領して、畑に居城を構え、以後、子孫は代々武名高く、信心が厚かったが、十六代野村監物が明智光秀に加担したため、天正十年(1583年)羽柴秀吉によって討ち取られ、畑城は消失、野村家は滅亡した。

なお、野村監物の墓は大雲寺に現存する。



金谷城より三島田神社を望む

三島田神社石仏



中央の大きな石仏三体は、釈迦如来を中心に左が地藏菩薩、右が聖観世音菩薩である。釈迦如来の背部には、「神宮寺六十六部供養、永享12年庚申(1440年)6月19日」と記銘されている。

また、聖観世音菩薩の背部には、「千部強供養施主源貞總」の記銘が残る。

近世の久美浜（丹後の領主支配）

丹後の近世は、関ヶ原の戦いの戦後処理策と連動し、宮津城主細川忠興が豊前国中津へ転封(天正10年(1582~1600))となった後、慶長5年(1600年)11月、信濃国飯田から京極高知が12万3200石で入封したことに始まるといえる。

当時の金谷部落の状況は米作を主体とした農家が住んでいたものと推測される。

旧石高調べ

天正11年(1583年)

| 市野々 | 布袋野 | 畑 | 金谷 | 市場 | 出角 | 須田 | 新庄 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 281 | 575 | 331 | 314 | 254 | 201 | 600 | 575 |

太閤検地

慶長6年(1602)、豊臣秀吉は天下を統一すると共に、土地の面積を1筆ごとに測量を行い、年貢徴収の安定・確立を図った。

5人組制度と庄屋

最末端組織として5人組制度を作り、組頭を中心に「家並最寄を以組合せ、親戚同様親しく可相交事」とし、農民の治安維持や逃亡・離脱を防止するため、連帯制を敷き一連托生の相互監視をさせ、結果的には年貢納入の安定を図った。

5人組の上には庄屋を置き、組頭の監督や年貢徴収の責任者として、集落の運営に当たらせた。

その後、寛文6年(1666)5月3日、高國のとき、親不孝や失政などの理由により除封となった。このため宮津は同9年2月、山城国淀から永井尚征が入封するまでのあいだ幕領となった。

延宝8年(1680)6月、永井尚征の子尚長が江戸増上寺で横死したため除封となり、翌年2月、武蔵国岩槻から阿部正邦が9万9000石で入封するまでのあいだ再び幕領となった。

元禄10年(1697)年2月、阿部正邦は宇都宮へ転封となり、代わって宇都宮から奥平昌成が9万石で宮津へ入封した。このため竹野郡・熊野郡30ヵ村が幕領となった。

ところが、宝暦13年(1763)4月、但馬国出石城(5万8000石)の仙石正辰が播磨国河西郡7000石と丹後国熊野・竹野両郡内で領地替えとなったため丹後国内に出石藩領が成立した。

その後、天保6年(1835)12月9日、仙石騒動の処分として3万石に減封されたため丹後の領地は、幕領に戻ったのである。以後、熊野郡内の領主支配は動くことなく幕領のまま明治維新を迎えたのである。

当時の金谷の状況が類推される物件は、三嶋田神社石仏や下の鳥居(1706)には7カ村氏子中と記されており、また、三嶋田神社本殿は、文政12年(1829)に建築されているが、当時すでに現在と同じような集落構成になっていたものと思われる。

明治時代以後の金谷

明治維新と廃藩置県

徳川幕府が崩壊し、明治時代へと移行したが、明治政府は積極的に西洋の思想を導入して、近代国家としての基礎を築いた。

明治2年 久美浜県に編入

明治5年 豊岡県に編入

明治11年 郡区町村編成法 各郡に郡長各1人を置き、各区に区長各1人を置く。

明治12年 京都府に編入

明治17年 町村会法 【選挙権】満20歳以上の男子 地租を納める者に限る

明治22年 町村制の実施 川上村は8部落で誕生

現代（昭和～平成）のできごと

| 年 次 | 主なできごと |
|-----|------------------------------------|
| S2年 | 丹後大震災が発生 |
| 7年 | 宮津線が開通 |
| 8年 | 三嶋田神社が郷社に昇格 |
| 9年 | 大風水害により床下浸水、堤防の決壊 斉藤知知事視察 |
| 15年 | 三嶋田神社に玉垣及び回廊を設置 |
| 16年 | 学制改革（川上小学校は川上国民学校となる） |
| 20年 | 太平洋戦争が始まる |
| 21年 | 太平洋戦争終結（敗戦） 学制改革により川上小学校誕生 |
| 28年 | 農地改革が実施される |
| 30年 | 金谷大橋（木橋）の架け替え |
| 36年 | 町村合併により川上村は久美浜町に合併される |
| 38年 | 第2室戸台風（10月）が直撃 三嶋田神社境内の樹木が多数倒れる |
| 42年 | 豪雪に見舞われる 交通機関が遮断され学校は休校となる |
| 43年 | 川上駐在所が移転 |
| 44年 | 第2次農業構造改善事業（府営土地改良事業）による圃場整備工事着工 |
| 45年 | 子安神社遷宮 三嶋田神社本殿上屋修理 共同作業場新築 |
| 47年 | 公民館新築 金谷区自治公民館方式に組織改正 中島道路拡幅完成 |
| 49年 | ヒロク山林の植林開始 下地道路（第1期）工事着工 |
| 51年 | 川上西部水道工事着工 林業センター竣工 川上小創立100周年を迎える |
| 52年 | 金谷大橋（コンクリート橋）完成 ドジョウ橋（木橋）架橋 |
| 53年 | 北谷、南谷林道（作業道）整備 |
| 54年 | 大旱魃（7～8月） 大川に水がない |
| 56年 | 府道アスファルト舗装が実施 |
| 59年 | 川原地及び上西谷道路を拡幅 |
| 60年 | 三嶋田神社拝殿の屋根瓦葺き替え修理 |
| 63年 | 薬師堂及び本尊仏像修理 |
| | 府営土地改良総合事業着工(H3年完了)川上小の校舎新築 |
| H元年 | 高龍中学校校舎新築 |
| 2年 | ドジョウ橋（コンクリート橋）竣工 |
| 4年 | 西谷・青地地区土地改良工事着工（平成6年完成） |
| 5年 | 下地道路拡幅、舗装（H6年完成） 地藏堂上屋新築 |
| 7年 | 西谷砂防堰堤（不動さん）竣工 西谷林道拡幅工事实施 |
| 9年 | 三嶋田神社石垣・玉垣修理 春祭りの日程を日曜日に変更 |
| 10年 | 幹線農道のアスファルト舗装を実施 |
| 16年 | 台風23号が直撃 床下浸水被害及び大川堤防8箇所決壊ほか被害は激甚 |



神社仏閣

☆ 三嶋田神社

村 社 久美浜町大字金谷小字今
ゴ田 鎮座 ※ 昭和8年に郷社に
昇格

祭 神 大山祇命

由緒 式内社にして其の創立最も古
く、丹後一覽記丹後舊事記等によるに、
垂仁天皇の代川上摩須の勘請に係れるも



のにて、寶永三年（1706）の銘ある鳥居には、三島大明神と刻し、文政十二年（1829）の棟札には三嶋田明神と記し往古は三島明神にして後世三嶋田明神と改称せるものの如し、而して当社の別当としては神宮寺あり、廢絶して字海士宝珠寺に合併せりといふ。

神社の東三町程にしてジンゴの森あり。神宮の森にして神宮寺の遺跡たり。此の神宮寺存立の年代等詳記せるものはなく正確に知るを得ざれど、元境内に安置せる釈迦觀音地藏の三石仏あり、維新後境外に移転せるものにて、右石仏の裏面に神宮寺六十六部供養とあり、片書に永享十二年（1441）庚申六月十九日とあれば、神宮寺存立の年代を推察するに足る。永享十二年は今を距る事四百八十年目前にして、神宮寺は当社の別当たりしなり。

而も当社は元十ヶ村の氏子なりしが、後世七ヶ村となり尚分離の結果現在は金谷、畑、須田の三部落の氏神として崇敬せり。

大正二年（1913）十月神饌幣帛料供進神社として指定せらる。

- | | | | | | | | | |
|---|----|------|--------|------|-------|----|------|----------|
| 1 | 本 | 殿 | 入母屋造 | 三年社 | 千鳥破風向 | 押付 | 檜材 | 勾欄付 |
| | | | 屋根 | クレ板葺 | 建坪 | 八坪 | 七合六勺 | |
| 1 | 上 | 屋 | 切妻造 | 松材 | 屋根 | 萱葺 | 建坪 | 貳拾坪貳合5勺 |
| 1 | 拝 | 殿 | 入母屋造 | 檜松材 | 屋根 | 瓦葺 | 建坪 | 八坪 |
| 1 | 籠 | 屋 | 入母屋造 | 檜松材 | 屋根 | 萱葺 | 建坪 | 壹拾壹坪七合八勺 |
| 1 | 境内 | 坪敷地種 | 千百三十四坪 | 官有地 | 第一種 | | | |
| 1 | 氏子 | 戸数 | 二百二十九戸 | | | | | |

境内神社

鎮守社 祭神 天穗日命 天思兼命

竹生島神社 祭神 不詳

☆ 三嶋田神社本殿 （H3年 町文化財指定）

文政12年（1829）の建築で、三間社大地造という珍しい造りで江戸時代後期の華麗な様式である。

棟札によれば棟梁は天下庄兵衛正房、飾師中井権次正貞

※1、棟梁天下庄兵衛正房は宮津藩に仕える宮大工といわれている。

2、中井権次正貞は丹波柏原町の住人で、龍の彫刻を得意とした彫物師

（注記） 1、神仏引分に関する令達 明治3年6月

- 2、10ヶ村は、川上村8ヶ村と品田、芦原。
 3、7ヶ村は、新庄を除く旧川上村の7部落である
 4、保全管理 ① 玉垣、回廊・透かし塀の建立 昭和15年
 (玉垣の改修 平成9年実施)
 ② 本殿上屋、社務所の屋根替え 昭和40年

【式内社】 醍醐天皇の延長5年(927)に編集が完了した『延喜式』の神名帳に、当時の神社の中で官幣又は国幣を祭る神社を記帳した。これを式内社という。

| | | | |
|-------|----------|-----------|------------|
| 熊野郡の | 熊野神社(神崎) | 意布伎神社(三分) | 伊豆志彌神社(出角) |
| 式内社 | 矢田神社(海士) | 丸田神社(甲山) | 売布神社(女布) |
| (11社) | 衆良神社(須田) | 三島田神社(金谷) | 神谷神社(久美) |

【別当寺】 神宮寺の一種。

神社境内に建てられ、別当が止住し、読経、祭祀、加持祈祷とともに

☆ 三嶋田神社鳥居(H3年 町文化財指定)
 宝永3年(1706)の建立で、貫裏に釈迦、観音、地藏三尊の種子と、柱に7ヶ村氏子中と刻していることに注目したい。
 本郡で現存する最も古い鳥居である。



☆ 三嶋田神社大鳥居
 大正8年建立の立派な石材(花崗岩)の鳥居である
 (注記) 大鳥居の建立について、その工法は境内の土を盛り土にして鳥居を据付したといわれており、取り土の後は弁天池として竹生島神社を祭り、残土は築山として利用されていました。
 現在は、築山は子安神社の遷座に際して取り払われ、弁天池のみその姿を止めている。
 ※写真右下の石に道しるべが刻まれている。



☆ 子安神社

無格社 川上村大字金谷小字小宮

祭神 木花咲耶姫命

由緒創立年代等詳ならねど、安産の神として衆人の賽する者多く、境内に夫婦木として椿樹の地上四五尺にして一樹となれるあり、この樹間をくぐれば安産するといへり。



- (注記) 1、現在地への遷座 昭和45年(1970)
 2、椿樹は移植の際枯死し、現在は椿木として子安神社内に保管されている。
 3、木花咲耶姫命は大山祇命(大山津見命)の娘である。



☆ 神輿

万延元年（1860）吉田御殿神輿師によって製作される。
明治25年（1890）に第1回目の修理をおこなう。
現在のものは昭和9年（1934）に修理したものである。



（注記） 神輿の形の六角形のものは珍しく、格式の高いものといわれている。

☆ 三嶋田神社石仏

ここに奉祀されている石仏は、三嶋田神社の東方『神宮の森』にあった、三嶋田神社別当神宮寺に祭られていたものである。（別当神宮寺とは、神仏習合思想に基づき、神社に付属して建てられた寺で、祭祀や管理を司どっていた。）

神宮寺廃絶後、石仏は三嶋田神社境内に移転安置されていたが、明治初年の神仏引き分けにより、神社境外に覆屋を建て、再び移転された。その後、昭和44年（1969）に行われた土地基盤整備事業により現位置に安置され、現在に至っている。

中央の大きな石仏三体は、釈迦如来を中心に左が地蔵菩薩、右が聖観世音菩薩である。

釈迦如来の背部には、『神宮寺六十六部供養、永享十二年庚申（1440）六月十九日と記銘されている。

また、聖観世音菩薩の背部には『千部経供養施主 源 貞總』の記銘が残る。

この三体の石仏は、三嶋田神社の祭神の本地仏で、宝永三年（1706）に建てられた同神社の旧鳥居に刻まれている梵字、パク（釈迦）、サ（観音）、カ（地蔵）とも一致する。（本地仏とは、日本古来の神に姿を変えて衆生救済をされる仏のことをいう。これは仏が万物の根源である、という考えに基づいており中世においては、主な神社では

本地仏が定められていた。）

地蔵菩薩の左は、庚申塔で日輪月輪の下に『天の邪鬼』を踏みつけた三眼六臂の青面金剛が刻まれている。

その左側の小祠は、基盤整備の際、小字イカシマ357番地付近より現地に移転されたもので、内部に五輪塔の水輪と六地蔵の刻まれた石幢の龕部が祭られている。



この六地藏は神宮寺地藏菩薩と伝承されており、当初祭られていた位置が神宮寺の跡とも推察される。

聖観世音菩薩の右側には石祠を有する板碑がある。

この板碑には、地藏菩薩が彫られており、別名を麦飯地藏と呼ばれている。古来より麦飯の嫌いな者がこの地藏尊を信仰すれば、麦飯が好きになり、体も丈夫になると伝えられている。また、この地藏尊は昔、狐に化かされた侍が刀で切りつけて二つになった、という話も伝えられている。地藏尊の年代はここに祭られている石仏中、最古のものと伝えられる



が不明である。因みにこの唐破風造りの石祠は後から造られたものと考えられ、側面には『宝暦二年（1725）七ヶ村氏子中』と刻まれている。

その右には、宝篋印塔がある。これは宝珠相輪が欠けているものの『中心飾付格狭間』を刻み、室町時代に造られたと伝えられる。

その右側の大師像は明治時代初期に前述の覆屋を建てた際に合祀されたと思われる。

最後に一番右側にある四体の地藏尊は、現在地より北へ二百米の場所、通称チシヤノ木（小字古戸308番地の東南隅付近）にあったものである。

これも基盤整備により、現在地に安置されたもので、その際、当初祭られていた地点から多数の灯明皿が出土したことが知られている。

この他に現在、神社の前を通る道が古代の街道であったことが判っており、石仏の存在、由緒等と合わせて歴史考察の上で大変貴重な資料となっている。

（金谷区・久美浜町教育委員会＝立札より）

神社の経営管理を行った寺。

（注記） 1、金谷神宮寺はその後衰頹し、海部村宝殊寺に合併されたとの古伝がある。

2、神宮寺の存在を示す地名として、『ケンケン寺』、『地藏』、『神子谷』、『クゴ田』という字があり、また神社の北東三町に『神宮の森』と称する字がある。

3、土地基盤整備（第2次農業構造改善事業）＝昭和42年～45年

4、地藏堂の上屋竣工 昭和5年8月

【その他の社及び祠】

天満宮

無格社 川上村大字金谷小字上地 鎮座
祭神 菅原大神
由 緒 神殿は明治22年改築し祭日は
25日なり。



三玉神社

無格社 川上村大字金谷小字谷 鎮座
祭神 澳津彦命 澳津姫命 軻遇突知命
由 緒 創立年代不詳なれど、現社
殿は明治15年改築せる所なり。



秋葉神社

無格社 川上村大字金谷小字谷 鎮座
祭神 軻遇突知命
由 緒 創立年代不詳なれど、現社殿は明治8年改築せり。



八龍神社

無格社 川上村大字金谷小字谷 鎮座
祭神 肆長津彦命 肆長津姫命
由 緒 不詳



山神社

無格社 川上村大字金谷小字北谷 鎮座
祭神 大山祇命
由 緒 不詳



※丸い石を供えると夜泣きを止める(地蔵さん)

薬師堂

川上村大字金谷小字上西谷

本尊 薬師如来

※ 昭和 60 年 本尊薬師如来
像を修理

毎年 7 月 7 日が例祭である。

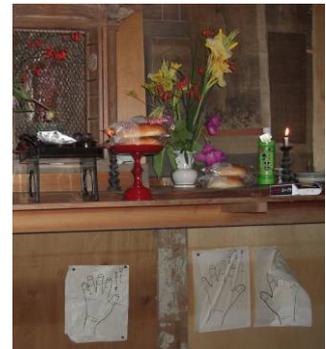


観音堂

川上村大字金谷小字多茂ノ木

本尊 千手観音 (手の仏さん)

毎年 7 月 17 日が観音さんのお
祭りで、昭和 40 年頃は、夜店を
出しにぎやかだった。近年は金谷
「青地会」が夜店を出し、にぎやかにしている。



地蔵堂

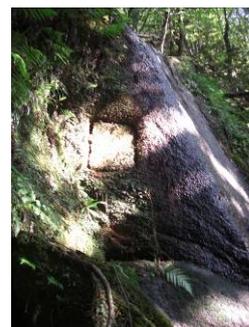
川上村大字金谷小字宮ノ上

本尊 地蔵菩薩

※ 昭和 45 年に圃場整備事業のためイカシマ
から移転



不動さん



名 所 旧 跡

金谷本丸と金谷城

青地岳から流れ出る谷を挟む南の山の稜端に 300 m²位の平坦地がある。これが小幡氏一族の墓地であって、この辺を金谷本丸と呼ばれている。墓に登道中途に平坦地がある。これが館址であろう。墓地に接して東には稜線を切って盛り上げた 30 m²位の台地がある。これは古墳のものでなく切通しも深く立上りも物々しい。城砦の址である。切通の裾で、台場から 6～7 m 下がった所迄、青地谷の谷水を堰き止めてえんえん 5～600m の間、山裾から中腹に遂に 9 合目迄稜に出谷に入り水を引いた溝址が残っている。終点には井戸があったか、20～30 kg 位の川原石が苔を被って 5～6 個散在していた。

この本丸の尾根の南は「谷」という谷があつてその南へ南へ続く尾根がある。この尾根は金谷人家の背後に川上谷川と同じように南から北に延びている。この北の裾より登っていくと八龍神社、その上に愛宕神社、次に秋葉神社が祀つてある。これから緩い尾根を南へ行く。稜上を高い所を削り低い所は土を盛り平坦にしてある。100m 程行くとぼったり途絶えている。それは其処に深い切通しがあつてその前に高い絶壁がそびえている。絶壁は天然のものでなく人工によって削つてある。さらに東に廻ると同じように切り立っている。

その下は「谷」から差込んだ谷である。その上に登る。そこが畑の城跡。金谷城址という。

丹後国檀御家帳によると「金谷城主野村殿」とあり、須田の大雲寺開基は野村氏と言ひ、其の落城は天正 10 年(1583) 9 月と記す。金谷から登る道は城の搦手道だっただろうか、金谷の本丸の城は畑の城の支城だったであろうか。畑の城址と金谷の城址とは規模に於て格段の差がある。

金谷城址

大字畑小字城地に在り、元来字金谷及び畑は同一の大字にして、共に金谷といいしが、後世分離して畑区を為せる所たり。されば丹後国御檀家帳にも、川かみのかなや一城の主也野村殿とありて、大正十年を距る事 380 余年前の古城たりしなり、城主を野村監物といへり。其の菩提所たる大字須田大雲寺に石碑及び位牌を存すれど、そは天明元年(1781)二百年之遠忌に際し作製せるものにて、野村監物卒去天正当時(1590 年頃)のものにあらざれば信をおき難きも、位牌の表には「當山開基天祥院殿高山宗桂大居士之位」とあり、裏面には「畑村城主野村見物源忠通天明元丑天 9 月 15 日 修二百年之遠忌立石塔並木牌者也 現住柏翁」とありて、遠忌を修せし事を知る。さて、金谷城は元伊勢肥前守の居城にして、野村氏其の後を襲えるものの如し。

金谷区に残る小字名

地区の名前（土地改良の時に整理された場所もある。）

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1. 市場境 | 22. 北谷 | 43. トクラ坂 |
| 2. 古戸 | 23. 紋谷 | 44. 下西谷 |
| 3. ヨノ木ノ下 | 24. 滝ノ下 | 45. タモノ木 |
| 4. 宮ノ下 | 25. 中尾 | 46. 紋谷口 |
| 5. イカシマ | 26. 南谷 | 47. クゴ |
| 6. 宮ノ前 | 27. 戸石場 | 48. 今ゴ谷 |
| 7. 宮ノ上 | 28. 堂谷 | 49. 古川 |
| 8. 今ゴ田 | 29. ヌカミソ | 50. 東ヶ坪 |
| 9. 須田境 | 30. 青地口 | 51. 上東ヶ坪 |
| 10. 赤崎 | 31. ケンケン寺 | 52. 青谷 |
| 11. 実塚 | 32. 地蔵 | 53. 谷 |
| 12. 横枕 | 33. 神子谷 | 54. 河原地 |
| 13. 豊田 | 34. 谷口 | 55. ヒロク |
| 14. 深田 | 35. 下ノ谷 | 56. 高ク口 |
| 15. 棚田 | 36. 上ノ谷 | 角田 |
| 16. 砂田 | 37. 下地 | 神宮寺跡 |
| 17. 畑境 | 38. 中嶋 | クレカケ |
| 18. クゴ田 | 39. 石田 | チサノキ |
| 19. 五反田 | 40. 上西谷 | 七反田 |
| 20. 小三郎 | 41. 曲り | 宮ノ後 |
| 21. 上河原 | 42. 茶円ヶ谷 | 京泉 |
| | | 才ノ神 |
| | | 大ダモ |

神社仏閣他

- | | |
|-----------|--------------------------|
| 1. 公民館 | 12. 本丸址 |
| 2. 金谷城址 | 13. 天満宮（天神さん） |
| 3. （愛宕神社） | 14. 三玉神社 |
| 4. 秋葉神社 | 15. 山神社 |
| 5. 八龍神社 | 16. 荒神さん |
| 6. 三嶋田神社 | 17. 川上ふれあいの家 （旧川上保育園） |
| 7. 地蔵堂 | 18. ふれあい広場 |
| 8. 観音堂 | 19. 旧J A川上支店 |
| 9. （不動さん） | 20. 林業センター |
| 10. 薬師堂 | 21. 元子安神社跡地 |
| 11. 子安神社 | |

※小字については
はっきりしない
場所もある。